

カトリック宝塚教会 宣教司牧の計画 2014～2015年度

主任司祭： パスクアル・サオリン神父



目次

- ① 司祭の手紙 (p.2)
- ② 勧告のドキュメント： 信仰年から未来の教会へ (p.4)
- ③ 司牧の計画のための基準、コンセプト、目的と指針 (p.15)
- ④ グループとチームの図表 (p.17)

カトリック宝塚教会の信徒と求道者のみなさんへ

主の平和

皆さん、信仰年が終わって、覚えたことと頂いた恵みを実現するための時間になったと思います。私たちの教会は2年ごとに、成し得たことのため、また頂いた恵みのために感謝し、将来に向かって宣教司牧を更新します。今年もグループ、チーム、地区を構成してから執行委員会を設立し、次の2年間の評議員と議長団を選出しました。また、教会の更新と次の2年の司牧の予定を作りました。私は、皆さんの指導者として、自分の使命に従って、司牧の指針と基準を与え、教会の方法を示さなければならないと思います。そのために、この宣教司牧の計画を書いて、皆さんの歩みを照らしたいと思います。グループ、チーム、地区、委員会は、この計画をルールとしてではなく司牧の指針として見て、使って頂きたいと思います。つまり、この計画は法律と倫理の文書ではなく、司牧と霊的な指導として読んで頂きたいと思います。

現代の教会にはたくさんありますが、根本的に私たちの教会の歩みは良かったと思います。勿論、信徒たちの中で色々な感覚があるので、人によって、また立場によって考え方と気持ちは違います。しかし、1年前のアンケートと大司教様の司牧の訪問のためのレポートによって、たくさんの信者の建設的な意見と気持ちがあることを確認することができました。時々、一つの枝は森を隠しますが、ちょっとだけ離れたら、枝は小さくなって、森の広さが現れます。本当にこの5年間、この教会の主任司祭として働かせてくださって、感謝します。最初の日と同じように、心をこめて、この教会のために働き続けたいと思います。

宣教司牧の挑戦がたくさんあります。残っている仕事は多いです、働き手が少なくなりました。しかし、宣教の中心は私たちではなく、聖霊です。従って、一番大切にしなければならないことは、信仰です。実は、信仰は私たちのすべての働きの土台です。信仰が強くなければ、たとえどんな素晴らしい司牧の計画、プロジェクト、予定があっても、無駄になると思います。ベネディクト十六世は信仰年を設立する目的は、根と土台から教会のすべての問題に直面することでした。同じように今の教皇様、フランシスコは「福音の喜び」という司牧の手紙を通して、信仰について素晴らしい教えを示してくださいました。私は1月からゆっくりこの文書を読んで、内容を考え、たくさんのヒントを見つけることができました。そのヒントを添えたこの「宣教司牧の計画」を通して皆さんと分かち合い、皆の信仰を新しくしたいし、希望と愛を強めたいと思います。

次の2年間のための指針と基準を示す前に、5年前から始まった司牧の計画を皆さんと思い出したいと思います。この司牧の計画は7年間でしたので、2009年から始まって、後2年残っています。勿論、最初からみると現実に合うために、色んな変更がありました。基本的には計画のコンセプトは変わっていません。次の図表は今の司牧の計画を示します：

年度	司牧の目標とテーマ
2009	教会の歩みを調べ、慣れて、現実的な宣教司牧の計画を作る
2010～2011	一致に基づいて、みんなのカリスマを実現する計画： グループ（信仰を深めるための会）と チーム（信仰を実行するための会）の構成
2012～2013	一致と宣教を目指して、信仰養成と司牧の活動を強める
2014～2015	信仰を深めながら宣教を通して、一つになる教会へ

この7年間の司牧の計画をよく見ると、私が強調したい三つのテーマが表れます。

- A) 教会の一致
- B) 信仰養成
- C) 宣教

これは私のもっとも大事なヒントですが、司牧の計画は「道具」だけです。途中で直しても、壊してもかまいません。従って「道具」として、信徒の幸せのために使いたいと思います。前記のとおり、私にとって宣教司牧の中心は教理、努め、ルールではなく、人間です。教会は「神の国の種と救いの秘跡」ですから、宣教司牧の目的は教会ではなく、「神の国」と呼ばれ、人間の救いです。教会は神の国のしるしですから、自分自身を中心にしないで、塩や光と同じように、人間の完全な解放を目指します。これを忘れてはいけません。

尚、今後のための宣教司牧の指針と基準を教えたいと思います。繰り返して言います：ルールではなく、希望、アドバイスと働くためのヒントをもらって頂きたいと思います。大きな変化はないつもりですから、分かち合いながら、神様の導きを識別しながら、神の国のために働き続けましょう。わからないところがあれば、どうぞ相談してください。これからも、どうぞよろしくお願いします。

2014年5月17日
パスクアル・サオリン・カマチョ
カトリック宝塚教会の主任司祭

勧告のドキュメント： 信仰年から未来の教会へ

① 紹介

現代の世界は大きな変化に直面していると思います。時代が変わって、色々の問題が現れてしまった。景気、環境、政治の問題が多くて、将来に向かって、不安が広がっていると思います。教会は永遠の命を目指しても、この世の中にあるので、その不安を感じます。実は、教会は自分の不安があります。第二バチカンの公会議から、カトリック教会はこの世の中で自分の立場と役割を探しています。激しく変わる文化、景気、環境の問題に対して、教会は応えなければなりません、戸惑いもあります。日本カトリック教会は、NICE1 と2を通して、現代の日本の社会に福音を示すために色んな宣教司牧のヒントを与えました。大阪教区は阪神淡路大震災から、教会の更新を推進しました。この宣教司牧の計画はたくさんの恵みを伴いましたが、時代が早く変わるので、また、新しい挑戦に対して、もう一度考えて、信仰を強めて、リスタート（再出発）をしなければならないと思います。

表面的に見れば、教会の現代の状態はあまりよくないと思います。危機の時代になっていることはおかしいことではないと思います。しかし、深く見れば、危機は終わりだけではなく、生まれ変わるためのいいチャンスであると思います。そのために、ベネディクト十六世は「信仰年」を作って、教皇フランシスコはその年を完全にして、教会を清めて、更新したい。わたしたちはこの二人の教会の牧者に導かれて、自分の小教区から協力しなければならないと思います。この勧告のドキュメントはその目的を目指します。色々の司牧者の専門家の教えと、教皇フランシスコの司牧の手紙、「福音の喜び」に従って、次の文書を皆さんに捧げたいと思います。ゆっくり読んで、考えて、個人的でも、共同体でも応えてくれたらありがたいと思います。

② 社会と教会の背景

現実にはわたしたちに影響を起こします。信徒が現実を理解しなければ、神様のメッセージを聞き分けることができません。神様が出来事を通してわたしたちに話している：「見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう。」（ヨハネの黙示3：20）。神様の御旨を知るために、深く現実を見て、理解しなければなりません。

現代に「仲介、取り次ぎ、信頼」の危機があります。教会危機だけではなく、文化の危機があります。（イデオロギー、哲学、宗教、政治など…）文化は神様を中心にし

ないで、偶像を作ってしまう。この偶像の中でもっとも大切にされているものは、人間そのものです。このようにして、アダムとイブの原罪は今も行われていると思います。人間が自分のことを見て、自分の考え方だけに基づいて、すべてを裁いて、他の人と創造も自己満足のために使ってしまう。この「原罪」の一つの結果は、神様から理性の独立です。つまり、自分の意見を作るために、神様のことを無視して、自分の理性の努力だけ使ってしまう。

残念ですが、現代の人間の状況は世俗的な状況だけではなく、教会の中に入ってしまった。勿論、教会の生活は表面的に聖なる活動をしているけど、深く見れば、信仰に基づかないで、人間の考えや力だけに基づきます。ベネディクト十六世はこの問題を「信仰の弱さ」と言いました。そのために、2年前「信仰年」を祝うことを決めました。信仰がなければ、たとえ一生懸命教会のために働いても、人間がつまらない生活、悲しみ、怒りっぽい態度に陥ってしまう教会になってしまいます。

昔から教会には現実を理解するために方法があります。この方法は三つの段階があります。この段階に従ったら、誰でも自分の真実を理解して、神様の御旨を識別することができます：

- ① 出来事を認めること
- ② 福音に従って、その出来事を解釈して理解すること
- ③ 見つけた問題に対して正しい選択をして、それを実行すること。

世界は大事な変化をしている。例えば、現代の経済のシステムは人間を助けなくて、人間の苦しみを起こしてしまいます。問題に対して、偽の神々は使われていると思います：遊び、物質主義、虚無主義、消費主義など。教皇フランシスコは厳しいことばを使いました：「資本主義は人間を殺している」。現代の不正義と罪のない人々の悩みを見れば、そのとおりであると思います。神様はこの不正義に対して叫んでいると思います。教会はその声を聞くことができないなら、大きな回心をしなければならぬと思います。

教皇フランシスコの司牧の手紙「福音の喜び」によれば、教会は世界の問題に十分に応えていません。時々教会の官僚主義は人間関係を壊してしまいます（EG -Evangelii Gaudium - 63）。経営が司牧に勝る時、教会の目的は奪い取られます。教会への圧迫があれば、宣教のための重い妨げであると思います。「福音の喜び」に従って、教会の次の弱点が明らかにされます：

- 信仰を深めるためのスペースと方法の少なさ
- 人の苦しみと悩みを治すことができない状況
- 宣教を中心にしないで、「付属」の活動として考えること

- プライバシーを大切にすぎ、自己陶醉症
- 教会の中で、浅い信仰を隠すための信徒の忙しい生活
- 認められない色々のコンプレックス
- 根のないスピリチュアリティ：この状況は疲れ、悲しみ、批判を作る
- 自分のことを認める態度。時々自己利益のための働き
- 批判的な態度。十字架から逃げること。忍耐の不足
- 閉じているグループ。狭い仲間意識。教会の派の間の敵対
- 世俗的な生活：神聖な形・世俗的な内容
- イエス様について、興味の不足。選択するとき福音を考えないこと
- 教会の組織を大切にすぎること
- 恐れ、臆病、厳しい態度
- 祈りの不足、噂と悪口

問題①： どこまでわたしはこの弱点を持っていますか？ どこまでその弱点は教会に影響を起こしているのでしょうか？

第二バチカン公会議から信徒の奉仕は大きく推進されました。しかし、その奉仕は社会への活動より、教会の中で行う奉仕の方が大切にされました。現代に社会のための奉仕者を作らなければなりません（EG102）。教会から社会への奉仕職を推進するために、新しい組織を作らなくてもいいと思います。すべての信徒が自分の生活の中で神様の存在を見つけることができれば、自然にいい宣教が出来ると思います。宣教することは特別な活動をする事だけではなく、毎日している同じ活動の中に新しい意味を入れることです。しかし、新しい霊性を作らなければ、本当の宣教をすることができません。実を結ばない教会は正しい教会ではありません。

問題②： わたしたちの教会は実をむすんでいますか？ どんな実ですか？

③ わたしたちの信仰と神様

神様はわたしたちの考えと理性に勝ります。神様に対して人間が自分を譲らなければなりません。信じることは神秘の「雲」に入ることです。神秘に近づく人は、完全な知識と理解に頼ることができません。信じるためには信頼しなければなりません。信仰はわたしたちを清めて、子供のような心を与えてくださいます。

信徒の信仰は弱いものであることを認めなければなりません。もっと厳しく言ったら、一人一人、幼児洗礼を受けても、長く教会で働いても、「わたしは本当に信じる」という質問に答えなければなりません。この質問に対して怒ってしまう信者は少なくありません。また、この質問は大変失礼な質問であるとする信者が多いと思います。しかし、教皇フランシスコの教えに従って、信仰を清めるために、失礼な質問ではなく、必要な質問であると分かります。

まず、信じることは为什么呢？ 応えて見ましょう：

- A) 神様を知ること。それは、信仰宣言を覚えることですか？ 違います。悪魔でも神様を知って、イエス様は主であることを知って、信仰の神秘をよく覚えています（1ヨハネ2：4とヤコブの手紙2：19）。
- B) 洗礼を受けて、教会の名簿に入ることですか？ 違います。いい行いがなければ、信仰もありません（マタイ7：15～25）洗礼証明書はわたしたちの宗教を示しますが、わたしたちの信仰の「レントゲン」ではありません。
- C) 十戒と教会の掟を守ることですか？ 違います。ファリサイ派も真面目に宗教の掟を守りましたが、キリストに反対しました（ルカ18：9～14）。

まず、本当に信仰があるかどうかを知るために、基準を変えなければなりません。新しい基準を使わなくてもいいのです。福音の教えだけを基準として使いましょう：

問題③ わたしは野原の花、空と鳥と同じようにゆっくり生活して、食べ物、飲み物、着物のために困っていますか？ わたしはすべてを捨ててキリストだけに従っていますか？ わたしは信仰を通して悪魔を追い出し、病気の人を癒しますか？ わたしは罪人を赦しますか？ わたしの敵のために祈りますか？ もし、この質問は難しいと思ったら、聖人の生活を見たらいいと思います。聖人は神様ではなく、わたしたちたちと同じ人間でした：わたしの人生は聖フランシスコ、聖テレジア、聖マクシミリアン・コルベ、マザーテレサのような生活ですか？ すべての聖人は、薄い信仰を持ったと思いました。では、あなたは本当に信仰がありますか？ 信じるための、信仰は足りないことを認めた方がいいではありませんか？

信じるための根本的な体験があります。この体験はナザレのイエスと出会うことです。この出会いがなければ信仰は砂の上に立ち、問題が現れる時、倒れてしまいます。神様と出会う人は、自分の信仰を隠すことができません。周りの人でも信仰の影響（解放、喜び、希望、愛情など）を見ることができます。神様は心の中で働きますが、わたしたちの言葉と行いを通して自分の救いの行いを示します。信仰の一つの大事なしるし

と証拠は「喜び」です。実は、喜ばなければ、信仰があることを言うことができません。怒りと悲しみは信仰のないしるしです。マリア様を見ましょう。マリア様は神様を信じて、喜びました。エリサベトはその喜びをよく見ました（ルカ1：45）。マリア様の喜びは信徒の最初の幸いであることです。

問題④ わたしはいつ、どのようにしてナザレのイエスと出会いましたか？ わたしの人生にどんな影響、どんな変化がありましたか？ わたしは喜びますか？ 周りの人を喜ばせますか？

④ 小教区の中で信じて、宣教するために

教皇フランシスコによって、神秘的な生活の土台は2つの「柱」があります：祈りと愛。神秘的な生活に基づく信徒が無理しないで働いて、自然に宣教することができます。しかし、この体験になるために回心のプロセスが必要です。回心は人生の仕事です。根本的に人生の中で2つの回心の種類があります：

- A. 最初の回心：この回心をする信徒が自分の考え方とやり方を変えますが、その変化の中心は神様ではなく、自分です。つまり、聖霊の導きより、信徒が自分の力、自分の協力を通して、行い、話し方、考え方でも変えることができます。しかし、この回心は人間の力に頼るので、失敗に直面する時、疲れ、悲しみ、絶望を起こしてしまいます。しかし、この恐ろしい体験は、本当の回心の始めです。
- B. 完全な回心：神様に自分の努力の実を与えることは十分ではない。本当に回心する人は、「果実」（よい行い）の代わりに、「木」（心）を与えます。つまり、人生のすべてを神様に委ねます。この回心をする人は、自分の行いを見るより、神様の憐れみを中心にします。従って、失敗に対して、疲れ、悲しみと絶望を乗り越えることができます。この回心する人は完全に自由になって、神様の救いに溢れます。人と自分を救うという気持ちより、救われたという体験を持つ人です。

回心のプロセスは成熟の体験です。人間だけ（神様なし）で成熟していない人は、いい信徒になることができません。信仰は神様の恵みですが、人間の心に基づきます。この体験を完全に受けるために、誠実な反省を必要としています。

問題⑤ わたしは回心していますか？ 成熟のプロセスを始めましたか？ わたしの人生の意味はなんでしょうか？ 何のために生まれましたか？ わたしの人生の源はどこにありますか？ 「歌う者も踊る者も共に言う「わたしの源はすべてあなたの中にある」と。」（詩編87：7）。

最後に、回心するためのヒントを示しましょう：

- 自分自身と出会うこと。心の中にいる神様の愛を探し求めること
- 執着を見つけ、認め、捨てること
- 人工的な道具を使わないで、自然な人間関係に戻ること（会話など）
- 共同体の神秘：兄弟姉妹の顔を通して、キリストの顔を見つけること。特に、好きではない兄弟姉妹を通して神様の存在を見つけること
- 赦すことができない人のために祈ること
- イエス様が探し求めることを自分も探し求めること。ある問題に対して、イエス様はなにをやるのでしょうか、と考えること
- 宣教の生活を作ること：問題から逃げないで、直面すること。問題は自分の成熟のためのいいチャンスですから
- 終わらない悲しみ、疲れ、批判的な態度に陥らないこと。失敗は本当の信仰の始めであることを忘れないこと
- 自分の力より、聖霊の方に信頼すること。自分が宣教の中心にならないで、神様の宣教に加わって、協力者として働くこと

信徒が一人で宣教することはできません。信徒は三位一体のイメージにかたどって、共同体を通して自分の信仰を生きます。教会は神の国のために働かなければなりません。従って、信仰の中心は教会ではなく、神の国を目指す宣教です。教会は宣教するために生きます。

小教区は、地域と時代に在る教会の存在です（EG28）。教皇フランシスコの教えに従って、小教区は次の役割があります：

- A) 神の御ことばを聞くための場所
- B) キリスト教の生活において成長するための場所
- C) 信仰を宣言して、社会と会話するための場所
- D) 兄弟姉妹の愛の場所
- E) 祝いの場所。神様に賛美して、神様を崇めるための場所

危機の時代の中で、教会は大きな使命があります。教会はもっとも大事なことを中心にしなければなりません。福音の中でもっとも大事なことはなんでしょうか？ それは神様の救いの愛です。つまり、神様のミセリコルディア（慈悲心）です。小教区は神様の憐れみに基づいたら、恐れなくて、変化しなければならないことを変えなければなりません。前の問題のための形、組織、システムは役に立ちましたが、現代に同じ道具、

形、システムを変えなければ、十分に現代の挑戦に 대응することができません。教皇フランシスコが願う通り、教会の組織を変えるために、恐れてはいけません（EG43）。聖霊に信頼して、また、忍耐しながら未来の教会に向かって、歩かなければなりません。この挑戦のために、パパ様は4つのヒントを与えてくださいました：

- A) 問題より、信仰の忍耐を大切にしなければなりません。問題を認めなければなりません、司牧の中心にしてはいけません。
- B) アイディア、意見と考え方より、真実の方が大切です。
- C) 問題より、一致の方が大切です。すべての問題の解決は一致を目指さなければなりません。
- D) 一部より、全体の方が大切です。教会の一致は信徒の人数の合計ではありません。教会の一致はすべての信徒の心の交わりです。

小教区は社会と文化に福音を与えるために働きますが、この働きは長いです。教会はいつも聖霊降臨の体験に基づいて、自分の遠慮と恐れを捨てて、積極的に福音の喜びを宣べ伝えなければなりません。教会は自分の文化がありません。教会は各文化に福音の種を蒔きます。この仕事をするために、文化をよく調べなければなりません。各文化は福音に賛成する価値観があるし、反対する価値観もあります。教会は宣教をするために、福音に賛成する価値観を強調して、反対する価値観に反対します。このようにして、社会の中で歩む教会は、各時代の中で神様の存在を見つめ、神様の働きに加わります。

特に、街の文化は広がっています。小さな街から大きな街に引っ越す信徒が少なくありません。街が大きくなればなるほど、色々の問題を起こします。特に、社会のリズムに従うことができない人が「道端」に倒れてしまって、助ける人があまりいません。福音の立場から、わたしたちはこの新しい貧しい人に対して大きな責任があると思います。時々、貧しい人はお金より、優しさ、温かいことば、親切さを必要としています。信徒が兄弟姉妹の愛を通してこの人々に新しい希望を与えることができます。特に、同じ地区に住んでいる信徒、或いは小さな共同体を作る信徒が、未信者と迷っている人に福音の救いを与えることが出来ると思います。そのために、新しい方法を作ったらいいいと思います。教皇フランシスコは具体的に、親睦会を作ることを願います。小教区はその小さなグループを通して、神様の慰め、福音のよい知らせを伝えることが出来ると思います。

信徒たちは宣教する時、直接だけではなく、間接でもイエス様のメッセージを伝えることができます。都合がよければ、遠慮せず、自分の信仰を明らかにしなければなりません。信仰は相手に迷惑かけることなく、相手を照らす、助けることです。従っ

て、信仰を隠すことは、隣人を大切にしないことです。しかし、都合がよくなければ、信仰を公に示すことができなくても、色んな方法で神様の愛を実現することができます。迫害も宣教の部分です。

宣教する時、すべての信仰を示すことができませんので、「ケリグマ」を伝えます。この「ケリグマ」は古いギリシア語のことばで、「信仰のまとめ」のような意味があります。このメッセージは単純です。宣教する人が難しいことばを使わないで、自分のことばで、相手が分かるメッセージを伝えます。聖書が教えてくださるとおり、「簡潔に話せ、わずかな言葉で多くを語れ。博識ではあっても、寡黙であれ」(シラ書32:8)。つまり、宣教をする時、難しく、長い説明が要りません。宣教のためのもっとも大事なことばは、信仰の証と沈黙です。

問題⑥ 現代の社会の中で、どんな価値観は福音に賛成すると思いますか？ どんな価値観は福音に反対すると思いますか？ 教会として、どのようにしていい宣教することが出来るでしょうか？ 具体的に、どうしたらいいでしょうか？ 現代の社会の中で、貧しい人、助けが必要としている人が誰であると思いますか？

信徒たちが一人一人自分のカリスマがあります。神様がわたしたちを遣わしますが、宣教司牧をするために、色々の贈り物を与えてくださいます。信徒たちのカリスマは個人的ではなく、共同体の中で現れ、共同体のために使われなければなりません。信徒たちが自分のカリスマを通して奉仕します。この奉仕はいつも神の国のためです。

⑤ 信徒の4つの柱

信徒が洗礼によってキリストに繋がられます。キリストと繋がっている信徒がキリストの3つの特性に加わります。この3つの特性とキリストの一致のための願いは、信徒の4つの柱になります。

- A) 司祭職：上に言ったとおり、信徒の祈りは大事なことです。祈りの種類は2つあります：個人的な祈りと共同の祈り。信徒がキリストの司祭職に加わるために、毎日神様に向かって祈らなければなりません。また、毎日曜日と大主日として定められた日もミサに参加して、贖いの秘跡（ミサ）を捧げなければなりません。

問題⑦ わたしは毎日神様のための時間を作って祈りますか？ 主日のミサに真面目に参加していますか？ しなければ、本当の理由を探しましょう。

- B) 預言職：キリストは預言者の伝統に従って、祈りを通して頂いた御言葉を証しました。この証しは宣言だけではなく、行いも伴います。信徒が神様の言葉を聞いて、学ぶために、信仰養成のプロセスに入って、信仰において成長します。また、覚えたメッセージを隠さないで、言葉と行いを通して実現しなければなりません。

問題⑧ わたしは自分の信仰を強めるために、また信仰において成熟するために、グループ、信仰講座、他の勉強会に参加していますか？ 信仰はプライベートであると思って、参加しなくてもいいと思いますか？ わたしは自分の信仰を隠さないで、都合がよければ明らかにしますか？ 他の人に福音の喜びを分かち合いますか？

- C) 王職：昔、王様の仕事は国民を守ることでした。よい王様はその責任を感じて、必要であれば国民のために命を捧げました。従って、本当の王職の意味は奉仕です。この奉仕は特に弱い人々、貧しい人々、迷っている人々など人のためです。

問題⑨ わたしは自分の信仰に基づいて、仕事と他の奉仕の活動をしていますか？ 教会の中だけで働いていますか？ 社会の中で働いていますか？ わたしは自分のことより、弱い人々、貧しい人々を守るために働いていますか？

- D) 一つになること：司祭職、預言職、王職はバラバラの特性にならないために、繋がりがが必要です。この繋がりは一致です。レンガで建物を作ることができますが、レンガの間にセメントがなければ、その建物は倒れてしまいます。一致は信徒の特性の間の必要な「セメント」です。ヨハネによる福音の中で、イエス様の大事な祈りがあります。これをキリストの司祭的な祈りと呼びます。この祈りのもっとも大事な願いは、信仰のための必要な一致です（ヨハネ17：21）。信徒は一人で信じたら、信仰を失ってしまいます。信じるために兄弟姉妹とともに三位一体の完全な交わりを探し求めなければなりません。この交わりは赦し、忍耐、希望を必要としていますので、難しいですが、作られなければ、本当の信仰があると言うことができません。

問題⑩ わたしは、教会の一致のためにどんな態度がありますか？ わたしは和解するため、また問題を乗り越えるために、どうすればいいでしょうか？

⑥ 教会の4つの範囲

上の信徒の4つの特性に基づいて、教会の4つの範囲を理解することができます。

この4つの範囲は司牧の方法ではなく、神学的、霊的なことです。宝塚教会の2009年司牧の計画から今までこの4つの範囲は変わっていませんが、もう一度思い出さなければならぬと思います。教会はキリストの神秘的な体ですから、キリストの特性もあります。

- A) キリストの司祭職に基づく教会の「リテュルギア」(典礼と祈り)
 - 神様に祈る教会。
 - 救いの神秘を祝う教会。特に秘跡を行う教会。
- B) キリストの預言職に基づく教会の「マルティリア」(信仰の証し)
 - 信仰を深め、伝える教会：入門、養成、司牧
 - 信仰を示し、教える教会：宣教
- C) キリストの王職に基づく教会の「ディアコニア」(奉仕)
 - 人を大切にして、お世話する教会
 - 教会の中だけではなく、社会の中から神の国のために働く教会
 - 平和と正義のために働く教会
- D) キリストの信仰のための一致の願いに基づく教会の「コイノニア」(一致)
 - 三位一体の交わりに加わって、一つになるために働く教会
 - エキュメニズムの運動に参加して働く教会
 - 互いにゆるしあって、愛し合って、一致のしるしになる教会

教会の一番現れる範囲は「ディアコニア」(奉仕)です。しかし、信仰のない人も他の人のお世話になることができます。奉仕をするために協力して、働く人は「仲間」になります。教会の中に仲間の関係もありますが、この繋がりは十分に兄弟姉妹の愛を示しますか？ 信徒の交わりは、会社、クラブのメンバーの繋がりと同じですか？ 仲間の繋がりが悪いということではありませんが、もう一つのステップに行かなければなりません。これは「マルティリア」(信仰の証)です。

弟子たちは自分の使命の始めから、派遣されました。キリストの復活の前に、弟子たちの信仰は完全な信仰ではありませんでしたが、イエス様はその弱い信仰を伝えることを願いました。信徒が伝える信仰は自分の信仰ではなく、教会(みんな)の信仰ですから、弱い信仰を持っている人でも、他の信徒と一緒に協力して、信仰の証をしなければなりません。信徒たちは協力して、信仰を伝える時、「友」になります。実は、イエス様は弟子たちを「友」と呼びました。しかし、「友」の繋がりで、まだ完全に教会の一致を示すことができません。もう一つの段階が必要です。それは「リテュルギア」(共同の祈り)です。

信徒たちが一緒に祈る時、兄弟姉妹になります。共同の祈りをするために、すべての信徒が個人的な祈りを諦め、同じ場所、時間、ことばなどを使って、一つになります。教会の共同の祈りは教会の一致を完全にします。勿論、この完全な繋がりの中に共同の仕事（ディアコニア）と信仰の共同の証（マルティリア）がなければ、形だけの典礼になって、空しい祈りになってしまいます。教会の誠実な祈りは教会の奉仕と信仰を完全にします。また同時に、教会の使命と宣言を強めます。このようにして、祈る教会は三位一体の完全な交わりを示すことができます。これは教会の交わり（コイノニア）の意味です。



⑦ 教会の4つの特徴に基づく宝塚教会のグループとチームの構成

2010年から、信徒の4つの特性と教会の4つの範囲を実行するために、「グループ」と「チーム」を作りました。この集いは具体的に教会の司牧の努めを果たします。しかし、やり方であるので、状況によって、また信徒と教会の都合に合わせて、変化することができます。根本的に、「グループ」の目的は信仰を深めること、また祈ることです（例えば、入門、信仰養成講座、祈り会など）。「チーム」は信仰を実行するための集いですから、交わりは言葉より、働きを通してされます。

グループとチームを作る前に、規約に従う他の集いがあります：議長団、評議会、信徒総会、委員会、地区、特別な委員会。この集いは教会の組織の部分として、司牧を整えるためですから、変えることができません。しかし、イエス様は教えてくださいとおり、人間がルールの奴隷ではありません。ルールは人間の救いのためですから、規約と他の教会のルールを大切にしても、教会に近づく未信者、求道者、信者の心を宣教司牧の第一番目の目的にしましょう。2014～15年度の司牧の基準、コンセプトと目的はこの福音の教えに基づきます。

司牧の計画のための基準、コンセプト、目的と指針

✚ 2014～2015年の司牧のテーマ：

- 「信仰を深めながら、福音の喜びを宣べ伝えましょう」

✚ 目的：

- 教会は神様の三位一体の交わりに基づいて一つになり、救いのメッセージを宣べ伝えること。
- キリストが教えてくださったとおり、一番悩んでいる人を最も大切な人にする
- もっと開かれた教会を作ること。来られる人を歓迎することだけではなく、教会の外の活動を強調して、文化と社会まで福音の価値観を述べ伝えること。
- 互いに愛し合って、教会として神様の愛のしるしになること。

✚ 教会の状態に基づいて、宣教司牧のためのヒント

- 信仰年後、信仰の意味を深め、信仰の実を結ぶこと
- 働くより、信仰の喜びを分かち合うために集まること
- 「サバティカル」のように、自分の信仰を振り返るための一年を作ること（2014年度）：たとえば、慌ただしい活動と大きな行事を減らして、黙想、祈りとリフレッシュを推進すること。
- 教会の中で優しい雰囲気を作って、誰でも簡単にみんなと繋がること出来る共同体を作ること
- 教会から社会への奉仕を増やすこと。つまり、もっと福音宣教の教会を作ること。
- 特に次のテーマを大切にすること：病者のケア、お年寄りと教会の繋がり、青少年の信仰の養成、家族の絆を強めること。単純な組織を作る。

✚ 司牧の計画に基づいて、司祭の具体的な指針、お願いと勧め：

- ◇ 青少年の信仰の教育について：青年の信仰養成を強調しましょう。

問題⑪ 青少年の信仰養成が大切なことを意識して、新しい方法を考えるためにどうすれば良いでしょうか？

- ◇ 病者について：

問題⑫ 例えば、病者の家族を通して教会は病者への司牧を強めたら良いと思います

か？（家族によって聖体拝領・同じ地区の仲間と友人を通して連絡することなど）

- ◇ 教会の活動について：教会の中で行う活動を減らし、外でする活動を推進しましょう。

問題⑬ 信徒が教会の制度ではなく、社会の会に参加して、もっと積極的に神の国のために働けるようにするには、どうすれば良いでしょうか？

- ◇ 小教区の地区の役割について：地区で信仰を分かち合うためのスペースを作りましょう。地区は未信者がキリストと出会うための便利な場所です。（例えば、祈り会、信仰の分かち合い会、茶話会など）

問題⑭ 地区を出会いと分かち合いと祈りの場所に変えたら、宣教司牧のためにもっと便利な場所になることが出来ると思いますか？

- ◇ 教会の行事について考え、準備して、コーディネーションをするために考える会、集いがあることは望ましいと思います。この集いがあれば、地区の責任を減らし、信徒が自分の暮らす地域で、分かち合うための時間とスペースを作ることが出来る。目的は、地区を通しての奉仕が重すぎる負担と感しないことです。地区としてどんな活動をして、楽しい時間、兄弟姉妹の仲良しの雰囲気を作らなければなりません。

問題⑮ 教会の行事のために行事を考える会、或いは地区の代表者の集いがあれば、教会の行事が楽になると思いますか？ 今まで通り、何も変わらなくてもいいと思いますか？ 仕事のコーディネーションのために、いいアイデアがありますか？

- ◇ 教会の一致について、組織を考えるより、自分の態度と行いを考えましょう。

問題⑯ 交わりのために、わたしは反省しなければならないことがありますか？

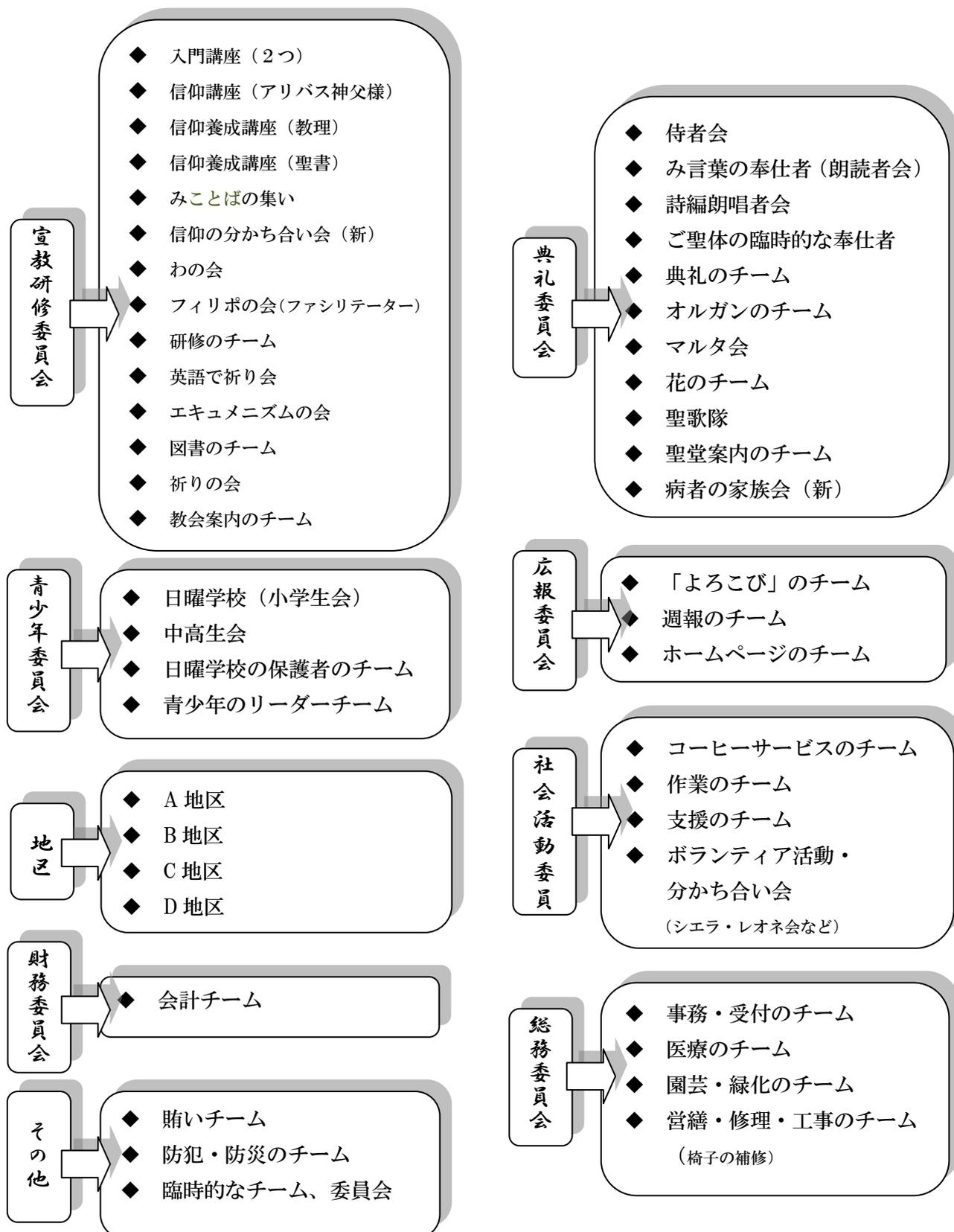
- ◇ 管理と工事について：五年間にたくさんの工事がありました。せめて一年間ゆっくり、未来の教会の管理を考えましょう。

問題⑰ 将来に向かって、管理について、一番大事な問題はなんでしょうか？

- ◇ 平和と正義のために働く教会：社会活動だけではなく、一人一人自分の生活のやり方で、神の国の価値観を大切にしましょう。特に、道端に倒れている人を忘れないで、貧しい人のために働きましょう。

問題⑱ 教会の社会活動は十分であると思いますか？ 他の活動をする事が出来ると思いますか？

グループとチームの図表



宣教研修委員会

チーム グループ	説明と注意	日と時間	代表
	入門講座の グループ 洗礼を受けたい人のための体験 信仰の土台を確かめる勉強 2グループ ・ 毎週集まる	(水) 10時 (土) 10時半	無し
	信仰養成講座A → 信仰講座 → 信仰を深めるための勉強会 信仰養成講座B → 聖書講座 (新約聖書の講座) →	(木) 10時 (金) 13時半 (第1・3)	無し
	みことばの 集い 神のみことばに基づいて 信徒の分かち合い	(金) 10時 (第1・3・4・5)	無し
	信仰の 分かち合い会 信仰を深めるための 説明と分かち合い	(日) 14時 (第4)	(新) 無し
	信仰養成講座 アリバス神父様の講座	(金) 10時 (第2)	無し
	わの会 信者及び求道者の親睦のための 集い。ティータイムもあります 水彩画、手芸など・読書会	(金) 13時半(第2)	2名
	フィリポの会 入門講座の指導者になるための会 (注意：自由に参加できない会)	第3日曜日 (14時)	2名
	研修の チーム 黙想会、講演会、研修会、 信仰講座などを準備する		2名
	英語で祈り会 外国人へのサポートをする 英語での祈りと分かち合い	(土) 18時半(第1)	2名
	エキュメ ニズムの会 他のキリスト教の教会と 一致を作るための運動		2名
	図書 チーム 教会内の図書の購入、整理、 貸出しをする・DVD上映会		2名
	教会案内の チーム 教会を見学するために 来られる方に案内する	事務所の時間	2名
	祈り会 祈りながら、祈りの色々の やり方を学ぶための会	(土) 16時 (第2)	無し

青少年委員会 (宣教研修委員会と連絡する)

チームグループ	説明	日と時間	代表
 日曜学校 小学生	子供たちにキリスト教の入門講座をさせる 初聖体の勉強と信仰を見直す	日曜日の ミサ後	無し
 中高生会	若者にイエス様のメッセージを教え ながら、成熟させる。堅信の秘跡の準備	月1回	無し
 日曜学校の 保護者のチーム	親として信仰において子供を守り、 カテキスタをサポートする		6名
 青少年の リーダーの チーム	子供たちと若者を指導して、教える (注意：自由に参加できない会)		6名

社会活動委員会

チームグループ	説明	日と時間	代表
 コーヒー サービス チーム	信徒会館談話室でのコーヒー、ケーキの 販売、片づけ。サービス用のケーキ作り 売上は国内外への支援金へ	日曜日の ミサ後	2名
 作業のチーム	国内外支援用手芸品の製作。教会内外販売用 手芸品、ケーキ作成。教会で使用する 典礼用品及び備品の製作、修理	(火) 10時	2名
 支援のチーム	カリタスジャパン、大阪大司教区などの要請 による災害などへの募金を行う。告知・ 募金・集計。必要であれば、支援物資集めと それに伴う運搬、送付		2名
 ボランティア 活動分ち 合いのチーム	国内外のボランティア活動をしている 宝塚教会の信徒の方々の情報公開、交換、 分ち合いを行う		2名

典礼委員会

チーム グループ	説明	日と時間	代表
	侍者会 ミサや他の儀式の時、 典礼のために助ける		2名 (父母)
	み言葉の 奉仕者 (朗読者会) ミサや他の儀式の時、説教台で 神のみ言葉を読む。 朗読の準備と練習		2名
	詩編朗唱者会 詩編を歌う 詩編を歌うための練習と勉強		2名
	ご聖体の臨時 的な奉仕者会 信徒の人数が多い場合、 ご聖体拝領の時、司祭を助ける (注意：自由に参加できない会)		2名
	典礼のチーム 香部屋の担当・お御堂案内 ミサと儀式の準備と片付け 先唱・共同祈願の当番を作る (注意：自由に参加できない会)		2名
	オルガンの チーム ミサと他の儀式の時、オルガンを 弾く。オルガンの管理と オルガンニストの当番を作る		2名
	マルタ会 儀式の時、典礼チームをサポート する・特に結婚式の時		2名
	花のチーム 儀式のために飾り物を作る。 お御堂をきれいにする		2名
	聖堂案内 のチーム ミサに参加するお客様を 歓迎して、案内すること		新 2名
	病者の 家族会 病気のために教会に来られない信徒 の家族の会。病者への適切なケアと 霊的なサポートをすること (注意：自由に参加できない会)		新 2名
	聖歌隊 聖歌を歌い 典礼のための練習する		2名

小教区の地区委員会

地区	説明	日と時間	代表
 A/B/C/D	全ての信徒がいずれかの地区に属しています。地区集会に参加して下さい 注意：登録、申込みの必要はありません		8名

財務委員会

チームグループ	説明	日と時間	代表
 会計チーム	教会の会計を管理するチーム 注意（自由に参加できないチーム）		2名

広報委員会

チームグループ	説明	日と時間	代表
 「よろこび」のチーム	月報「よろこび」の企画、編集。印刷のためのチーム		2名
 週報のチーム	週報作成、印刷のためのチーム		2名
 ホームページのチーム	ホームページの管理のためのチーム		2名

総務委員会

チーム グループ	説明	日と時間	代表
	事務・受付 のチーム	受付 注意（自由に参加できないチーム）	2名
	営繕 椅子の補修 のチーム	教会敷地内全ての設備・建物不具合箇所 調査・施工企画・実施維持・保全	2名
	園芸・緑化 のチーム	教会敷地内の草花の管理： 3チーム： A) 教会の前 B) 線路側 C) ナザレ館前	2名
	医療の チーム	主に主日のミサで体調不良を 訴えた方の応急処置 注意：医療関係者の参加をお願いします	2名

その他

チーム グループ	説明	日と時間	代表
	賄い チーム	司祭のために夕食を作り、教会に持参。 阪神地区の司祭の集まる時、夕食を作る	月1回
	防犯・防災 チーム	防災管理担当	